

2017年4月18日
株式会社インプレスR&D
<http://nextpublishing.jp/>

10年後の教育環境を10人の論者が語る
『これからの「教育」の話をしよう 3 教育改革×未来の教室』
発行

学校広報ソーシャルメディア活用勉強会(GKB48)編 第3弾

インプレスグループで電子出版事業を手がける株式会社インプレス R&Dは、『これからの「教育」の話をしよう 3 (副題:教育改革×未来の教室)』(編者:学校広報ソーシャルメディア活用勉強会)を発行いたしました。

『これからの「教育」の話をしよう3 教育改革×未来の教室』

<http://nextpublishing.jp/isbn/9784844397656>



編者:学校広報ソーシャルメディア活用勉強会
小売希望価格:電子書籍版 1,200円(税別)/印刷書籍版 1,500円(税別)
電子書籍版フォーマット:EPUB3/Kindle Format8
印刷書籍版仕様:A5判/モノクロ/本文114ページ
ISBN:978-4-8443-9765-6
発行:インプレス R&D

<<発行主旨・内容紹介>>

本書は教育関係者が集まるソーシャルメディア上のグループ、学校広報ソーシャルメディア活用勉強会(略称:GKB48)が開催した第4回教育カンファレンスの内容を書籍化。「共感からコラボレーションへの飛躍—10年後の教育環境をイメージして」をテーマにしたこのカンファレンスから10人のスピーチを採録しました。これからの人材を育てる「学びの場」の未来像が多様な視点で語られています。

学校広報ソーシャルメディア活用勉強会による書籍は、第3回教育カンファレンスの内容を基にした「これからの「教育」をしよう2 教育改革×ICT力」(2017年3月)、第1回教育カンファレンスの内容を基にした「これからの「教育」をしよう2 教育改革×ソーシャル力」(2013年6月)も発売中です。(このシリーズは次世代出版メソッド「NextPublishing」を使用し、出版されています。)

「第2章 プレゼンテーション」より(1)

01 無償のG Suite for Educationで教育と学校経営を変える！ 【田尻慎太郎】

横浜商科大学准教授・IR室長 田尻慎太郎

「一人一台端末」というと、大変ではないかと思われる方も多いと思います。そこで、私が2008年から行ってきた「BYOD (Bring Your Own Device) と GSE (G Suite for Education) を使えばお金をかけずにできる」という話をいたします。



情報システムを自分たちの手に取り戻す

私は1992年に慶應義塾大学の法学部を卒業し、SFCに学士入学をしました。基本は文系ですので、当時最先端のインターネット環境を備えた

SFCで「転校生」として周りに追いつくには、けっこうたいへんな思いをしました。その後は研究所での勤務や留学を経て、2005年から東京都小平市にある嘉悦大学で働き始めました。翌2006年、SFCを出ているのだからと学内のIT担当になりました。

嘉悦大学は2001年に四年制大学として設置されたばかりでしたが、開学時からすでにノートPCは必修、無線LANは導入済みで、NTドメインや独自開発のLMSが入っているなど、当時としては先端を行っていました。ところがこれは表向きで、私が担当になった時にはSMTPサーバーがどこかの踏み台にされてブラックリストに乗り、嘉悦大学のサーバーを使ってもメールの送受信ができないなどという状況だったのです。また、学生たちは「必修」なので入学時にノートPCを買うのですが、そもそも1年次のコンピュータの授業以外でノートPCを使う機会もなく「買わされた」という強い不満を持っていました。

私はこれを何とかしなければいけないと思いました。なぜ、このようになってしまったのか、それは経営陣が「学生が全員ノートPCを持っている」ことを特徴にし、宣伝したいという動機での導入だったからです。そもそも、大学内に自分たちのシステムを分かっている人間が一人もいないため、二言目には「それは業者さんが」という言葉が出てくるのです。この状況を変えるために、職員と学生と一生涯懸命に勉強しました。そして、行きついた結論は「全部取り換えよう」ということでした。

2006年当時はスパムメールが多く、メールに対する苦情が非常に多かった時でした。そこで、サーバーとシステムをどうしようかと考え、まず対外線の接続とネットワーク機器の入れ替えをしました。2007年4月、日本大学でGoogleのGmailを導入するという報道を「INTERNET Watch」で見た私は、すぐに日本大学に電話を入れ、ゴールデンウィーク明けにヒアリングに行きました。そこで対応してくださった日大の学術情報センターの方に「Googleの人を紹介してほしい」と頼み、名刺をコピーしてもらいました。それが有名な及川卓也さんだったのですが、

「第2章 プレゼンテーション」より(2)

06 ‘オンリーワン’発見ゼミナール、 実録発表～問題児を社会へ～ 【三井豊久】

一般社団法人強みプロ育成協会 理事長 三井豊久

私は元プロボクサーの内藤大助さんに似ていると、よく言われます。内藤さんは葛飾区にある宮田ジムに所属していました。実は私も約15年前、3年ほど宮田ジムに通っていたのですが、当時、宮田ジムには100人ほどの練習生が所属していて、会長はこう言っていました。「100人のうち、金になるのは1人だけ。あとの99人は更生だよ。お預かりした子をしっかり更生させて社会に出していくことを、ボクシングジムでは教育と言っている」と。

誰にでも可能性はある

私自身は過去に1億円の借金があったことがあり、会社も一度、倒産させています。墨田区にあるデザイン事務所でした。それから、25年かけて借金を返済しましたが、なぜ会社が倒産したかと言えば、それは、良い社員がいなかったからだと思います。当時、私は金儲けをしたくて社長になったのですが、従業員教育というものには興味がありませんでした。

しかし、大借金をして会社を倒産させ、ようやく目が覚めました。「中小企業のために人を育てる仕事をしたい」と考え、42歳の時にデザイン会社をたたみ、人材育成の会社を創りました。現在までに300社以上のコンサルティングの実績を持ち、業績を上げています。

良い大学を出ていなくても、良い会社に入らなくても、決してエリー



「オンリーワン発見ゼミナール」

トでなかったとしても、誰にでも成功する可能性はあります。しかし、中小企業の社長たちは人の教育ができないことが多いのです。実際に私自身がそうでした。ですから、私は中小企業が苦手としている社員教育の部分を手伝いたいと考えて、現在の業務を行っています。

人材育成で培ったノウハウを利用し、「大学、高校でダメな人間と評価されてしまう学生、生徒たちの可能性を引き出してあげることができたらよいのではないかと。それは中小企業のためにもなる」と考えて活動をしてきました。そうした考えを聖学院の山下さんに話したら「失敗してもいいから、うちでやってみてはどうか」と提案されました。

本日は4年間実施した、聖学院大学キャリアサポートセンターでの課外講義の記録を発表します。発表は強みプロ育成協会専務の早坂が行います。

<<目次>>

はじめに

第1章 「未来の教室」を探る

MOOCの動向とJMOOCの現状および今後の展望[福原美三]

第2章 プレゼンテーション

01 無償のG Suite for Educationで教育と学校経営を変える！[田尻慎太郎]

02 ICT推進がもたらす学校の進化[築瀬 誠]

03 支援活動から生まれた「共感」を子どもたちの教育に[古島尚弥]

04 これから生きる生徒が幸せに生きていくための「ライフ・コース・デザイン」授業を目指して[藤牧 朗]

05 デジタルネイティブ時代に向けた新しい学校広報—学校広報は“Engagement”の時代へ[千葉友範]

06 “オンリーワン発見ゼミナール、実録発表～問題児を社会へ～[三井豊久]

07 Eラーニング時代のコーチングの可能性、教育学を超える「学習学」の提唱者[本間正人]

08 いま問われている学校の役割—「教える」から「学ぶ」への大転換—[安居長敏]

09 未来の教育環境を考えてみよう[渡邊純一]

おわりに

<<『これからの「教育」の話をしよう』既刊>>

『これからの「教育」の話をしよう 2 教育改革×ICT力』



編者:学校広報ソーシャルメディア活用勉強会

小売希望価格:電子書籍版 1,200円(税別)/印刷書籍版 1,500円(税別)

電子書籍版フォーマット:EPUB3/Kindle Format8

印刷書籍版仕様:A5判/モノクロ/本文134ページ

ISBN:978-4-8443-9754-0

『これからの「教育」の話をしよう 教育改革×ソーシャル力』



編者:学校広報ソーシャルメディア活用勉強会

小売希望価格:電子書籍版 1,048円(税別)/印刷書籍版 1,505円(税別)

電子書籍版フォーマット:EPUB3/Kindle Format8

印刷書籍版仕様:A5判/モノクロ/本文147ページ

ISBN:978-4-8443-9582-9

<< 編者紹介 >>

学校広報ソーシャルメディア活用勉強会(GKB48)

2011年8月に第1回の勉強会を大宮で開催するとともにフェイスブックに非公開のグループを作成したことにより発足。略称 GKB48 の「48」は、47 都道府県＋海外を意味する。学校広報に限らず、学校運営や教育問題、ソーシャルメディア、ICT に関心のある人が集まり、2017年2月現在では1,700名を超えるメンバーを擁する。大学、専門学校、高等学校、中学校、小学校、学習塾、教育関連・情報関連企業、NPO 法人ほか、それぞれの立場にある人々が、「教育」「ソーシャル」「広報」というテーマのもと、組織を超えて教育への思いを発信・共有し、未来の「教育」をつくることを目指す。ソーシャルメディアの活用や教育の未来などについてオンラインで意見、情報の交換を行っているほか、メンバーが会場に集まったの勉強会も実施している。

<< 販売ストア >>

電子書籍:

Amazon Kindle ストア、楽天 kobo イーブックストア、Apple iBookstore、紀伊國屋書店 Kinopyy、Google Play Store、honto 電子書籍ストア、Sony Reader Store、BookLive!、BOOK☆WALKER

印刷書籍:

Amazon.co.jp、三省堂書店オンデマンド、honto ネットストア、楽天ブックス

※ 各ストアでの販売は準備が整いしだい開始されます。

※ 全国の一般書店からもご注文いただけます。

【株式会社インプレス R&D】 <http://nextpublishing.jp/>

株式会社インプレス R&D（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：井芹昌信）は、デジタルファーストの次世代型電子出版プラットフォーム「NextPublishing」を運営する企業です。また自らも、NextPublishing を使った「インターネット白書」の出版など IT 関連メディア事業を展開しています。

※NextPublishing は、インプレス R&D が開発した電子出版プラットフォーム(またはメソッド)の名称です。電子書籍と印刷書籍の同時制作、プリント・オンデマンド(POD)による品切れ解消などの伝統的出版の課題を解決しています。これにより、伝統的出版では経済的に困難な多品種少部数の出版を可能にし、優秀な個人や組織が持つ多様な知の流通を目指しています。

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ＋サービスを提供するメディア事業を展開しています。

【お問い合わせ先】

株式会社インプレス R&D NextPublishing センター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105

TEL 03-6837-4820

電子メール: np-info@impress.co.jp